



# 浄土真宗 本弘寺婦人会だより

平成16年3月 第17号

## 愚かなる 我が身知れよと 涙する 弥陀誓願の 深き尊さ

私たちの生活の中には尊いものがたくさんあります。家族も友人も健康も財産も、しかしそれらは必ず失うものであり、そうしたものは本当に尊いとは言えないのです。ところが阿弥陀如来はいつでも、どこでも常に私に真実に目覚めてくれよと働き続けてくださっています。ですから尊さの中の本物と言うことで御本尊と申すのです。

各ご家庭のお内仏（お仏壇）は、阿弥陀如来の御本尊を中心とした本当に尊い働きが現されている大切な場所です。ですから御本尊が無くては、いくら高価な仏壇でも単なる箱にすぎないのです。その大切なお内仏には、燭台、香炉、花瓶があり、これを三具足（みつぐそく）と申します。具足とは、大切なものが充分具わっていると言うことで、如来の智慧と慈悲の尊い働きを表しています。

お灯明は光であり、阿弥陀如来の智慧の光に照らされて見えなかったものが見えてくるのです。助けられ、我慢され、許され続け、たくさんの大きなお陰様によって生かされる世界が見えてくるのです。お香の香りは老若男女、善人も悪人も、賢者も愚者もすべての人に心の安らぎを下さります。お花は私が喜びにあるときは喜びを倍増させ、悲しみの時は悲しみを和らげてくれます。そして枯れてゆくのです。その姿にいつまでも健康ではない。若さは必ず衰え、そして死を迎える。この大切な真実に目覚め、人生の喜びの時も悲しみの時も、一日一日を大切に生きることがいかに尊いことかと教えてくださっているのです。

大切に生きるとは、虚勢を張るのでもなく、賢くなることでもなく、利口ぶる必要もないのです。利口ぶるから苦しむのです。そのまま安心して愚者になることです。愚者に目覚めることです。愚者であるが故にお陰様の世界が味わえるのです。

合掌  
住職 高島宣明

### ～ 質問コーナー ～

Q：「花まつり」とはお釈迦様のお誕生を祝う行事ですが、なぜ「花まつり」と言うのですか？  
婦人会会員

A：お釈迦様は2500年もの昔、インドのカピラ国の王子様として無憂樹（むゆうじゆ）の花が咲き匂うルンビニーの花園で4月8日にお生まれになられました。お釈迦様が説かれた仏の教えは今に綿々として伝えられ、私たちの悩み、苦しむ人生に大きな光明を放って私の生きる力となって下さっています。その喜びを思うとき、お釈迦様のお誕生を心からお祝いしたいと思う心が「花まつり」の行事なのです。

この「花まつり」はいろいろなお花で飾った花御堂（はなみどう）を作り、お誕生仏（お釈迦様がお生まれになられ、右手で天を指し、左手で地を指し、「天上天下唯我独尊」と宣言されたお姿）をお迎えし、甘茶をおかけいたして（お釈迦様がお誕生になられると二頭の龍が現れ、甘露の雨を降らしたとの伝説にもとづき）お祝いすることから「花まつり」と言われますが、正式には「灌仏会」（かんぶつえ）と申します。

# 御成婚おめでとうございます



大谷光見御法主台下におかれては、この度めでたくご成婚の運びと相成りました。ご成婚は三月十四日（日）、午後二時から東本願寺本堂阿弥陀如来のご尊前において、神社本庁統理の久邇邦昭様ご夫妻のご媒酌のもとに執り行われました。また披露宴は、同日午後六時から恵比寿ウエスティンホテル東京にて開催されました。私共、本弘寺婦人会におきましてもかねて待ち望んでいた御法主台下のご成婚を心からお慶び申し上げ、会員一同と共に祝い申し上げたく存じます。お相手は、近藤ひでか様で、興如上人（故大谷光紹台下）のご親友であった精神科医で医学博士の近藤章久（故人）・寿子夫妻の養女です。御法主台下とは、ニューヨーク大学留学中に会われ、宗教法人東本願寺ニューヨークの設立、ご教化にご尽力なされた方で、現在デザイナーとして活躍しておられます。

私は東本願寺派婦人会の理事長という大役を仰せつかっておりますことから、披露宴では東本願寺派婦人会を代表いたしましてお祝いの言葉を一言述べさせていただきました。400名以上のご来賓の中での御祝辞でございましたので、とても緊張いたしました。御法主台下より「本当に心にしみるお話をいただき、とてもうれしかったです。ありがとう。」とのねぎらいのお言葉を頂きましたら、疲れもいっぺんに吹き飛んでしまうほどでございました。本当にまたとない御縁にあわせていただきました。

御法主台下、新御裏方様には心よりお慶びを申し上げます。

合掌  
本弘寺坊守 高島美智枝

### ～ お知らせ と 予定 ～

日付	本弘寺	婦人会
4月8日	花まつり 午後1時より 琴・尺八の演奏会があります。	花まつり 午後1時より
6月7～8日		婦人会一泊旅行
6月20日	永代経 午後1時より	総会
8月13日～16日	お盆法要 16日午後1時より	お盆参拝者へのお茶接待